



2022年2月10日

各位

会社名 株式会社 QD レーザ
 代表者名 代表取締役社長 菅原 充
 (コード番号: 6613 東証マザーズ)
 問合せ先 取締役 CFO 経営企画室長 幸野谷 信次
 (TEL. 044-333-3338)

2022年3月期通期業績予想の修正並びに営業外収益及び営業外費用の計上に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、2021年5月13日に公表しました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の業績予想を修正することといたしました。あわせて、2022年3月期第3四半期累計期間(2021年4月1日～2021年12月31日)において、営業外収益及び営業外費用を計上することとなりましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(1) 2022年3月期の業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	1,260	△533	△505	△508	△14.71
今回修正予想(B)	1,097	△549	△516	△502	△14.34
増減額(B-A)	△163	△16	△11	6	
増減率(%)	△12.9	—	—	—	
(参考)前期実績 (2021年3月期)	895	△654	△707	△879	△32.94

(2) 修正の理由

当社の事業のひとつであるレーザーアイウェア事業を取り巻く経営環境におきまして、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に終息の目途がつかず、各国で移動制限がかかる中で、展示会や面談ベースでの営業活動に支障が出ております。

上期は販売目標を達成しましたが、当期中は影響が継続するものとして、業績予想を修正いたします。

売上高は163百万円の減少となった一方で、海外出張の中止等により販売費及び一般管理費の減少を見込むため、営業利益は16百万円の減少となり、為替差益の増加を見込むため、経常利益は11百万円の減少となります。また、原状回復費用の見積りが減少し特別利益を計上したため、当期純利益は6百万円の増加を見込んでおります。

今後に関しましては、先行きは不透明ながらも、海外市場で内需の回復に向けた動き等も見られております。

当社といたしましては、市場回復の時期を見極めるとともに、感染拡大の終息期に予想される需要の回復

に対応し、遅滞なく対応を行うための活動を継続いたします。

また、新たな3つのロービジョンエイドなど新製品の開発も進め、同時に読書バリアフリー法（注）に有効な機器として都・県議会、市区町村に働きかけており、来期以降の図書館、病院等への本格導入を目指します。

（注）読書バリアフリー法：令和元年6月28日施行「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」

2. 営業外収益の内容

障害者総合支援事業費補助金（障害者自立支援機器等開発促進事業）等により補助金収入6,126千円を営業外収益として計上いたしました。また、外国為替相場の変動により、為替差益13,477千円を営業外収益として計上いたしました。これは主に当社が保有する外貨建て預金や売掛金の評価替えにより発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動いたします。

3. 営業外費用の内容

新株予約権の行使に伴う登録免許税および証券代行手数料の発生等により、株式交付費11,953千円を営業外費用に計上いたしました。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在で入手可能な情報による判断及び仮定を前提にしており、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上